



東北大学大学院工学研究科  
災害制御研究センター教授  
Masato Motosaka  
源 榮 正 人 さん

## 風間市長の 新春 対 談

風間市長の2回目となる「新春対談」のお相手は、文部科学省の防災研究成果普及事業の一環として南町地区での防災ワークショップや、白石中学校に設置されている「緊急地震速報システム」の実証実験のほか、宮城県沖地震の被害想定を行うなど、全国的な防災研究の第一人者であります東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター教授の源栄正人さんです。

「安全・安心なまちづくり」を目指す当市の取り組みについてのアドバイスや、源栄教授が現在取り組んでいる防災に関する研究、最新のさまざまな防災対策などについてお話を伺いました。

### 自主防災組織の必要性

風間：今日は本当にお忙しい中、お越しいただきまして、ありがとうございます。

今、「安心・安全なまちづくり」というのが、お題目のようにどこでも言っているのですが、さてそれが実践となると、どこまで進んでいるのだろうと思うんですね。

宮城県の場合は、特に今後30年の間に99%の確立で起こるだろうといわれている宮城県沖地震のことがあります。「安心・安全なまちづくり」と言ったとき、市民の皆さんからよく、交通安全対策の話はお聞きするんですが、案外、地震などのいつ来るかわからないものに対する関心というのは、薄れてきているのかなという不安がありますね。

源栄：そうですねえ。安全という場合、一般に交通安全や防犯、防災のことを指しますが、実はすべて共通する部分があるんですよ。危険予知力を高める、つまり「災害を知る」ということです。このほかにも、身体的回避力や、万一の場合にみんなと仲良くやっていくという適応共生力といったものがあります。これらは、どんな安全対策でも一緒なんです。風間：はい。当市では交通安全はもちろんです。特に、地震に対

する防災に力を入れているんです。しかし、当市の113の自治会のうち、まだ24の自治会でしか自主防災組織が設立されていません。

源栄：白石市は自主防災組織の組織率が現在21.2%ということですが、極めて低いですね。過日、山形の最上地方で講演する機会があったのですが、山形県全体では現在58%、最上でも32%あるんです。風間：いろいろところで自主防災組織結成のお願いや説明はしているんです。「自主防災」への認識をもう少し高めてほしいと思うのですが…。

源栄：平成7年の阪神大震災の時には、救助された方の95%が、自力または家族、隣人による救出なんです。専門の救助隊による救出は1.7%にすぎません。

ですから、この「自分たちの命は自分たちで守る」という理念を基本原則に、この10年間さまざまな研究・開発に取り組んできたんですね。自主防災組織の組織率は高いに越したことはないんですが、実質的に活動しないと何にもなりません。

風間：そこですね。当市は、昭和の大合併時に1町7カ村が合併してできたまちなんです。かつての7カ村の方は割と結成への動きが早いのですが、中心部での結成が進まないとなかなか市全体の結成

率が上がらないんでしょうね。

先生には、南町の方でいろいろ指導していただいています。一つの地域で活発に活動を行うと、防災意識は高まると思います。

そして、やはり「持続する」ということが私も大切だと思います。今、先生がおっしゃったように、組織はしたが、動かなければ意味がありません。

源栄：ええ。そのためには、自治会長さんなどを中心とした、強力なリーダーシップのある方が必要なんです。そして、やはり若い方がこの組織に加わっていかないと持続できないと思います。この辺りが課題なんじゃないかな。

風間：そうですね。源栄：昨日、仙台市のある町内会長さんとお話して、その方の話ではやはり、若い人の中には最初「いやだ」という人がいるんだそうです。でも、それであきらめてはいけなくて、我慢強く少しずつでも広げていく。すると、だんだんこちらを向いてきてくれるんだとおっしゃっていました。辛抱強さが大事だと思います。

風間：なるほど。一度断られても、何度もお伺いすることで理解してもらおうですね。

源栄：そういうことですね。名簿作りからでも、とにかく行動することが大切なんだとおっしゃっていましたね。



▲越河地区では自主防災組織連合会を設立

### 安全・安心メールの これからの活用方法

源栄：白石市は、防犯体制などが安全対策という意味では、防災と防犯を融合したシステムというのが非常に大事なんです。

風間：今年から始めた安心・安全メールの登録者は、現在、約1,500名です。何かあったときにすぐ知らせるシステム、これだけは行政がやるべきものだと思いますから。

源栄：このメールサービス、仙台市でも昨年からは始めているんですが、誤報が流れたときに損害を被る場合があるので、どういう情報

を流すのかという問題があります。また、情報が混み合ったりして、肝心なときにメールが伝わらない可能性もある。こういった問題への対策が大事だと思います。

風間：白石の安心・安全メールは、市内で震度を感じた場合に、登録している人にその時の震度をお知らせするということです。市内にいれば、揺れの大きさは分かるんです。

ところが、市から離れた場所にした場合は分からない。登録しておけば、メールです。離れた場所でも情報が入ってきます。すると、自分のまわりの震度が分かるという安心がもたえます。

源栄：気象庁が配信する緊急地震速報の実用化が進んでいます。近い将来大揺れの前に、学校や家庭で震度が分かる時代が来ます。それを期待してもらえばいいかなと思います。

風間：はい。実は私、宮城県で地震がありましたというのを東京で一度体験したんですよ。そうすると、気になりますよね。

源栄：私も私どもでは、「出張先で地震があったときには知らせてください」といった内容のメールが携帯に入るシステムを作ったんです。今、仙台の卸町で試験的に行っています。

### 災害時に防災協定が 発揮する力とは？

方などにも役に立つと思います。風間：もう一つ、この安心・安全メールの重要な役割が、各学校ごとに行っている不審者情報の配信なんです。これだけは保護者のみの登録制です。高校の方まで随分広がってきているようで、好評をいただいています。

源栄：学校の場合は、通常時の防犯機能と地震が起こったときの防災機能を兼ねた、ハードとソフトをうまく組み合わせた有効なシステムができると思っています。

風間：防災について、白石は結構いろいろなところと防災協定を結びました。これで、衣食住が大体そろったんです。さらに、七ヶ宿ダムとも提携しまして、川沿いの掲示板を利用して、ダムの放流情報などを安心・安全メールで流すようにしているほか、定点カメラを使って、テレビでも常時見れるようになりました。そうして、二重、三重の連携を今、構築しています。

ですが、私も「安心ですよ」とは言いつつも、これがいざ、本当に災害が発生したとき、私は何を注意したらいいのだろうと思うところがあるんです。源栄：やはり、どこにどうい